

鳥栖市文化財調査報告書第92集

村田
三本
松遺跡

村田三本松遺跡

市内遺跡関係埋蔵文化財発掘調査報告書2

鳥栖市文化財調査報告書第92集

2018

鳥栖市教育委員会

二〇一八
鳥栖市教育委員会

鳥栖市文化財調査報告書第 92 集

市内遺跡関係埋蔵文化財調査報告書 2

村田三本松遺跡

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2 0 1 8

鳥栖市教育委員会

序

鳥栖市は、脊振山地東端の九千部山を最高所としてなだらかに傾斜し、九州最大の大河、筑後川に面した緑と水豊かな内陸都市です。この地域は、古来より現代まで九州の交通の要衝として発展してきました。そのため、貴重な文化財が数多く存在しています。

本書は、個人住宅建設に伴い調査を実施した、鳥栖市村田町に所在する村田三本松遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

鳥栖市の西部に位置する当該遺跡は、国道 34 号や旧長崎街道付近にあり交通の利便性があることから沼川を挟んだ西側には西部工業団地が立地しています。本遺跡では、昭和 50 年代から住宅や集合住宅の建設に伴い発掘調査を実施していますが、縄文時代から弥生時代の墓地遺跡をはじめとした人々の営みを示す遺跡が多く見つかっています。今回の調査では、それらを補完する成果を得ることができました。

本書を通じて、地域の文化財に対して一層のご理解をいただき、また、学術・文化の向上に寄与するものであれば幸いに存じます。

最後になりますが、開発と文化財保護との調整にご理解とご協力をいただきました江頭豊様・しずる様はじめ関係者の皆様、そして発掘作業や整理作業に従事された方々に厚く御礼を申し上げます。

平成 30 年 3 月 31 日

鳥栖市教育委員会

教育長 天野 昌明

例 言

1. 本書は、個人住宅建設に伴い調査を実施した、鳥栖市村田町に所在する村田三本松遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は平成 25 年 11 月 20 日～ 12 月 22 日に実施し、遺物水洗作業を平成 26 年度、遺物復原・整理作業を平成 28 年度、報告書作成作業を平成 29 年度の事業として実施した。各作業は、文化庁国宝重要文化財整備費補助金および佐賀県文化財保存事業補助金を受けて、鳥栖市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査にあたっては、江頭豊氏・江頭しずゑ氏・佐賀県教育委員会ならびに地元の方々の協力を得た。
4. 出土遺物の整理を含む報告書作成作業は、下記の分担で行い、鳥栖市牛原町文化財整理室で行った。
 - ・遺構実測 中田里美・榑崎孝子・久山高史・島孝寿・内野武史・大庭敏男
 - ・遺物復原 河原まゆみ・榑崎孝子・松崎友子・毛利よし子・大庭敏男
 - ・遺物実測 松崎友子・毛利よし子
 - ・製 図 松崎友子・毛利よし子・大庭敏男
 - ・遺物写真 大庭敏男
5. 本書の執筆・編集は、大庭敏男が担当した。

凡 例

1. 本書で報告する調査地区は、8 区とした。
2. 遺跡の略号は、村田三本松遺跡（AMS）である。
3. 遺構の種別を表す分類番号は次のとおりである。
SJ：甕棺墓 SP：土壙墓
4. 遺構図に用いた方位は、磁北である。
5. 測定値の表示に用いた単位は、遺構 m、遺物 cm を原則としている。
6. 遺構一覧表で示した計測値は、+ は残存値を表す。
7. 遺物一覧表で示した計測値は、() は復原値、< > は残存値を表す。
8. 遺構と遺物の実測図および写真は、鳥栖市牛原町文化財整理室に保管する。

本文目次

第1章 調査の概要	1
I. 調査に至る経緯	1
II. 調査の組織	1
第2章 地理的環境・歴史的環境	2
I. 地理的環境	2
II. 歴史的環境	3
第3章 調査の内容	6
I. 遺跡の概要	6
II. 調査の内容	6

挿図目次

図1 村田三本松遺跡周辺遺跡地図 (1/15,000)	2
図2 周辺位置図 (1/6,000)	4
図3 村田三本松遺跡8区遺構配置図 (1/50)	5
図4 SJ8001・SJ8004・SJ8005・SJ8006・SJ8009・SJ8012 (1/30)	8
図5 SJ8007・SJ8008・SJ8010・SJ8013・SJ8014・SJ8015 (1/30)	9
図6 SJ8016・SJ8017・SJ8018・SJ8019・SJ8020・SJ8021・SJ8022 (1/30)	10
図7 SJ8023・SJ8024・SJ8025・SJ8027・SJ8028 (1/30)	11
図8 SJ8026・SP8002・SP8003・SP8011・SP8029 (1/30)	12
図9 SJ8001・SJ8004・SJ8005・SJ8006・SJ8009 甕棺 (1/12)	15
図10 SJ8007・SJ8008・SJ8010・SJ8012・SJ8013 甕棺 (1/12)	16
図11 SJ8014・SJ8015・SJ8016・SJ8017・SJ8018・SJ8019・ SJ8020・SJ8021 甕棺 (1/12)	17
図12 SJ8023・SJ8024・SJ8025・SJ8026・SJ8027 甕棺 (1/12)	18
図13 SJ8022・SJ8028 甕棺、SP8011 出土遺物 (1/12)、SJ8005 出土遺物 (1/1)	19

表目次

表1 村田三本松遺跡8区遺構一覧 甕棺墓	13～14
表2 村田三本松遺跡8区遺構一覧 土壙墓	14
表3 村田三本松遺跡8区 出土遺物 (甕棺)	20～22
表4 村田三本松遺跡8区 出土遺物 (青銅器)	22

写真図版目次

写真図版 1	1. 8区全景 (西から)		
写真図版 2	1. 8区全景 (西から)	2. 8区全景 (東から)	
写真図版 3	1. SJ8001 (南から)	2. SJ8004 (西から)	3. SJ8005 (東から)
	4. SJ8006 (東から)	5. SJ8007 (北西から)	6. SJ8008 (南西から)
	7. SJ8009 (南から)	8. SJ8010 (南西から)	
写真図版 4	1. SJ8010 (右)、SP8011 (左) (北から)	2. SJ8012 (西から)	
	3. SJ8013 (南西から)	4. SJ8014 (東から)	5. SJ8015 (東から)
	6. SJ8016 (南から)	7. SJ8017 (南西から)	8. SJ8018 (西から)
写真図版 5	1. SJ8019 (北から)	2. SJ8020 (北から)	3. SJ8021 (東から)
	4. SJ8022 (東から)	5. SJ8025 (西から)	6. SJ8026 (西から)
	7. (左から) SJ8026、SJ8027、SJ8028 (南から)	8. SP8002 (北から)	
写真図版 6	1. SP8003 (南から)	2. SP8029 (東から)	3. SJ8001 下甕
	4. SJ8004 上甕	5. SJ8004 下甕	6. SJ8005 上甕
	8. SJ8006 上甕	7. SJ8005 下甕	
写真図版 7	1. SJ8006 下甕	2. SJ8007 上甕	3. SJ8007 下甕
	5. SJ8008 下甕	4. SJ8008 上甕	6. SJ8009 上甕
	9. SJ8012 上甕	7. SJ8009 下甕	8. SJ8010
写真図版 8	1. SJ8012 下甕	2. SJ8013 上甕	3. SJ8013 下甕
	5. SJ8015	4. SJ8014	6. SJ8016
	9. SJ8018 上甕	7. SJ8017 上甕	8. SJ8017 下甕
写真図版 9	1. SJ8018 下甕	2. SJ8019 上甕	3. SJ8019 下甕
	5. SJ8020 下甕	4. SJ8020 上甕	6. SJ8021 上甕
	9. SJ8023 上甕	7. SJ8021 下甕	8. SJ8022
写真図版 10	1. SJ8023 下甕	2. SJ8024 上甕	3. SJ8024 下甕
	5. SJ8025 下甕	4. SJSJ8025 上甕	6. SJ8026 上甕
	9. SJ8027 下甕	7. SJ8026 下甕	8. SJ8027 上甕
写真図版 11	1. SJ8028 上甕	2. SJ8028 下甕	3. SP8011 出土遺物
	4. SJ8005 出土遺物		

第1章 調査の概要

I. 調査に至る経緯

鳥栖市村田町字五本松 678 番地 4 において個人住宅の建設が計画された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地であったことから、平成 25 年 9 月 30 日付で、江頭豊氏・しずゑ氏より文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく届出が鳥栖市教育委員会に提出された。届出に基づき 10 月 10 日に確認調査を実施したところ、弥生時代の墓地を確認したため、協議を行った。

協議の結果、設計変更が困難であることから開発面積 770㎡のうち住宅建設部分 91㎡について発掘調査を実施し、記録保存をすることで合意した。発掘調査は、平成 25 年 11 月 20 日～12 月 22 日に実施した。

II. 調査の組織

発掘調査は、鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。組織は、以下のとおりである。

調査主体 鳥栖市教育委員会

教育長	天野昌明
教育部長	園木一博（～平成 27 年 6 月 30 日 平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）
教育次長	江寄充伸（平成 28 年 4 月 1 日～10 月 31 日） 白水隆弘（平成 29 年 4 月 1 日～）
教育部次長	尼寺 学（～平成 26 年 3 月 31 日） 白水隆弘（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日） 江寄充伸（平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）
生涯学習課長	緒方心一（～平成 26 年 3 月 31 日）、佐藤敦美（平成 26 年 4 月 1 日～）
生涯学習課参事	岡本昭徳（～平成 26 年 3 月 31 日） 近藤信孝（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日） 成富俊夫（平成 27 年 7 月 1 日～12 月 31 日） 山津和也（平成 28 年 4 月～）
生涯学習課長補佐	佐藤敦美（～平成 26 年 3 月 31 日） 高松隆次（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日） 八尋茂子（平成 29 年 4 月 1 日～）
文化財係長	久山高史
文化財係主査	鹿田昌宏（事前審査・確認調査担当、～平成 28 年 7 月） 向田雅彦・島孝寿・内野武史、重松正道（～平成 26 年 3 月 31 日） 湯浅満暢（平成 26 年 4 月 1 日～）、尾形愛美（嘱託・平成 28 年 11 月～） 大庭敏男（発掘調査・整理報告担当）

調査協力 佐賀県教育庁文化財課

発掘調査作業員 秋好忠義 緒方幸弘 皆良田憲男 皆良田涼子 刈間節次 篠原英雄 直塚功
中田里美 檜崎孝子

室内整理作業員 河原まゆみ 檜崎孝子 松崎友子 毛利よし子

第2章 地理的環境・歴史的環境

I. 地理的環境

鳥栖市は、佐賀県の東端に位置し、北東は基山町、西はみやき町と接するが、北・東・南は福岡県筑紫郡那珂川町・小郡市・久留米市と県境を接する。市域は、南北約9km、東西約8kmに広がり、その面積は約71.72km²である。

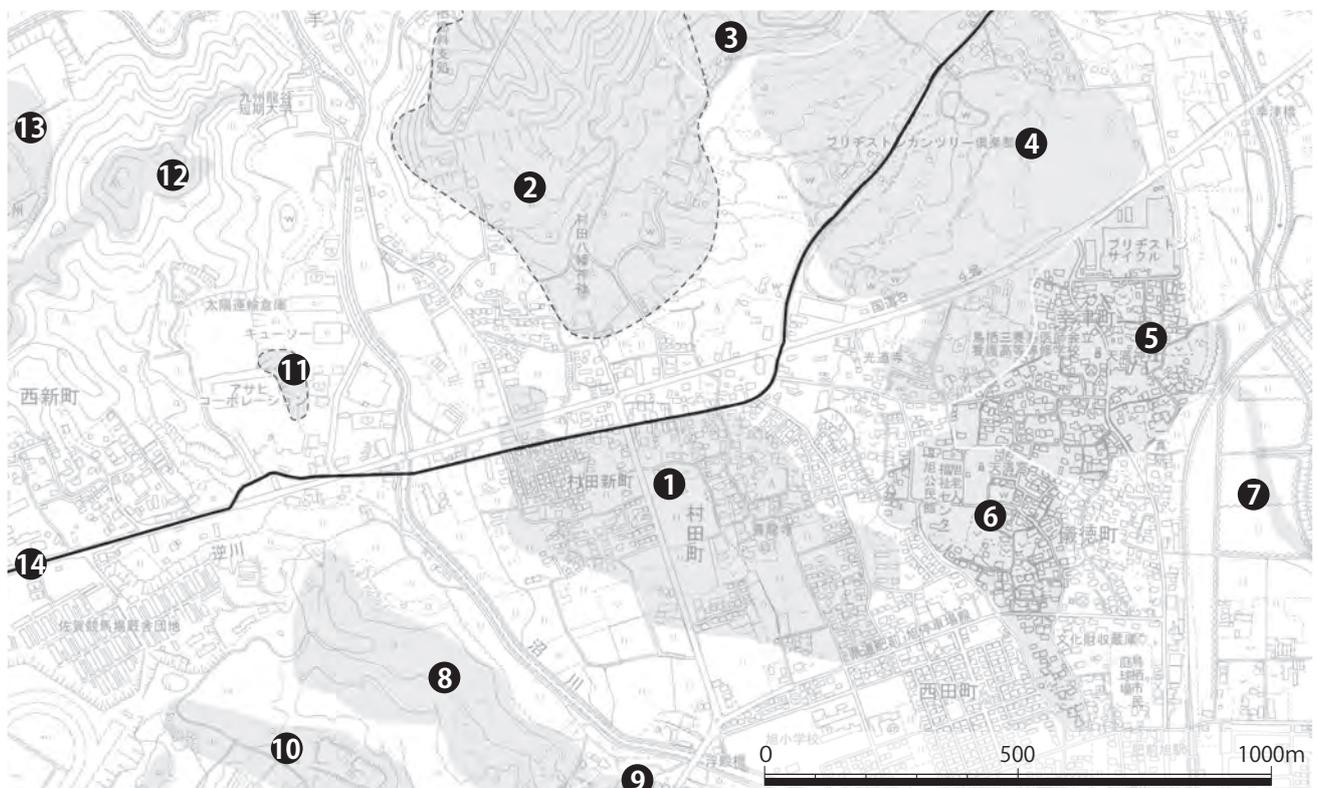
市の北部に連なる山々は、脊振山地の東端となり、二日市地峡に至る。本市は、二日市地峡を経て福岡平野と筑紫平野の接点となることから、高速道路や鉄道など主要交通機関が通過する。

市北部の山々は、九千部山(847.5m)を主峰として、その東には杓子ヶ峰(312.0m)、西には城山(494.1m)を経て石谷山(754.1m)、雲野尾峠(400.0m)へ続く。それらの山麓から南へ高位段丘が伸び、それに連なる中～低位段丘上には市街地が載る。さらに、南に広がる洪積平野は田園地帯となって筑後川にいたる。

また、市の南西部に位置する朝日山は、その西側の所熊山とともに三郡変成岩によって形成された丘陵であり、そこからそれぞれ南方向に中～低位段丘が伸びている。

市域を流れる河川は、北の山麓部に源を発し、蛇行して小河川と合流しながら南流して宝満川に注ぎ込み、さらに筑後川に注ぐ。主要な河川は、西から沼川(11.5m)、安良川(10.9m)、大木川(12.5m)そして最も東には秋光川(14.3m)が流れる。

本遺跡は、石谷山に源を発した沼川が朝日山と所熊山の間を流れ出たところの左岸、朝日山から南西に派生した低位段丘上に位置する。



- | | | | | |
|-----------|----------|---------|---------|----------|
| 1 村田三本松遺跡 | 2 村田古墳群 | 3 朝日山城跡 | 4 安良遺跡 | 5 幸津遺跡 |
| 6 儀徳遺跡 | 7 幸津霞堤 | 8 相模遺跡 | 9 江島遺跡 | 10 天神記遺跡 |
| 11 所熊山古墳群 | 12 所隈山城跡 | 13 所隈遺跡 | 14 長崎街道 | |

図1 村田三本松遺跡周辺遺跡地図 (1/15,000)

Ⅱ. 歴史的環境

市内には、旧石器時代から近世にかけて約 190 の遺跡が確認されている。

旧石器時代では、長ノ原遺跡・平原遺跡・本川原遺跡・牛原原田遺跡・本行遺跡など高位～中位段丘に立地する遺跡でナイフ形石器や尖頭器、台形石器、角錐状石器が採集されているが、明確な遺構は検出されていない。

縄文時代では、今町共同山遺跡で草創期～早期の刺突文土器、西田遺跡で多数の集石遺構とともに早期の押型文土器、牛原原田遺跡で前期の曾畑式土器が出土している。平原遺跡では集石遺構 40 基とともに中期の並木式土器が出土している。蔵上遺跡では土器棺墓 41 基・住居跡 10 軒とともに土偶や十字形石器などが大量に出土しており、後期の拠点集落と捉えることができる。村田三本松遺跡では晩期の甕棺墓地が検出されている。

弥生時代の遺跡は市内の各所で発掘調査がなされており、前期まで高位～中位段丘で営まれた集落が、中期中頃までには低位段丘に広がり、後期には低位段丘にも環濠集落が形成されるようになったことが明らかになっている。遺跡を挙げると枚挙にいとまがないが、特に、青銅器鋳型が出土した安永田遺跡・本行遺跡・藤木遺跡、赤漆玉鈿装鞘銅剣を含む 7 本の銅剣等を副葬する墓地群と祖霊祭祀とみられる大型建物跡や祭祀土坑が検出された柚比本村遺跡は、中期から後期にかけて注目すべき遺跡である。安永田遺跡・柚比本村遺跡は市北東部の高位段丘に立地し、本行遺跡は市南西部の中位段丘に、藤木遺跡は JR 鳥栖駅の南に位置する現市街地の載る低位段丘に立地する遺跡である。

古墳時代には、山麓部や高位段丘上に古墳が築造されるようになる。特に 6 世紀代には剣塚・庚申堂塚・岡寺古墳などの大型前方後円墳や田代太田古墳・ヒヤガンサン古墳などの装飾古墳が築造された。その後、北側の山麓一帯の尾根に最大で直径 20m ほどの群集墳が築かれる。しかし、この時代のまとまった集落跡は見つかっていない。

飛鳥～平安時代は、筑前国・筑後国と接する肥前国の東端に位置し、基肄郡と養父郡に属した。奈良時代に作成された『肥前国風土記』には、基肄郡について「郷陸所里十七、駅壺所、城壺所」とあり、養父郡について「郷肆所里十二、烽壺所」とある。郡の中心となる郡家について、基肄郡家の比定地は諸説あるが、八ツ並金丸遺跡で大型の掘立柱建物跡とともに 8 世紀代の瓦が確認されており、郡家に関連する施設と考えられる。養父郡家は旧蔵上集落を比定地としてきたが、近接地の発掘調査によって多数の掘立柱建物跡や「厨番」などの墨書土器を確認しており、郡家比定地であることの裏付けとなった。なお、養父郡の「烽壺所」は、朝日山に比定され、郷の一つとして挙げられる狭山郷は、朝日山周辺の集落であるとされる。

平安時代後期頃には本市域においても荘園が見られるようになる。安楽寺領として鳥栖庄、幸津庄、同新庄、神辺庄、八幡宮弥勒寺領として養父庄、その他に村田庄があり、義得保、瓜生野保の公田も文献にみることができる。鎌倉時代の御家人として土々呂木氏、曾根崎氏、山浦氏、高田氏などが見られ、今泉遺跡では同時期の館跡が確認されている。

南北朝～戦国期では、現市街地を中心に館跡や町屋跡を確認している。また、鳥栖市の北西部に位置し安良川の上流にあたる城山一帯に広がる勝尾城筑紫氏遺跡は、広大な面積とともに城跡及び館跡が良好な状態で残っている。

近世には、鳥栖市の東部と基山町を領域とした対馬宗家領（田代領）と鳥栖市の西部を領域とした佐賀鍋島領が所在し、おおそ洞庵山とよばれる丘陵・安良川・轟木川を境界とした。江戸と長崎をつなぐ主要街道の一部である長崎街道は、市域を北から西へ通過しており、本市域に所在する宿場町跡は、対馬宗家領の田代宿と佐賀鍋島領の轟木宿があり、その間約 4 km であった。さらに田代領の長崎街道沿いには、瓜生野町（現本町）のような町場が形成されていた。また、江戸時代、すでに形成されていた在郷の村々は、現在

みられる集落の基礎となっている。

佐賀鍋島領の村田町一帯は、親類四家の一つ村田鍋島家の配分地となっており、長崎街道沿いに形成された町場は村田鍋島家の中心地であった。

村田三本松遺跡では、これまでに7次の本調査を実施しており、縄文時代晩期～平安時代後期と広範にわたる時期の遺構が確認されている。いずれの調査区も、近世の長崎街道以南に所在する。墓地遺跡としては、1区の縄文時代晩期～弥生時代中期後半、2区の弥生時代中期中頃の遺構が確認されている。また7区では痕跡のみで時期不明の甕棺墓や土壙墓、石蓋土壙墓がある。また、同時期の集落として、2区・4区・6区で土坑などを検出している。また、弥生時代よりも後の時期のものとして、1～4区と6区で古墳時代の集落跡、5区で平安時代後期の小鍛冶跡を確認している。いずれも沼川の左岸、標高12～13mの低位段丘で営まれた遺跡である。

本遺跡の載る丘陵の西を南流する沼川と、東を流れる安良川にはさまれた朝日山の南麓一帯には、弥生時代の遺跡が多く見られる。朝日山の南麓に所在する安良遺跡では、4次の発掘調査が実施されており、弥生時代中期初頭～後半の甕棺墓・土壙墓や後期の石棺墓による墓地遺構が検出されている。さらに、その南の儀徳遺跡で実施された2次の調査や確認調査においても弥生時代前期末～中期中頃の甕棺墓・土壙墓や後期の石棺墓による墓地遺構が検出されている。



図2 周辺位置図 (1/6,000)

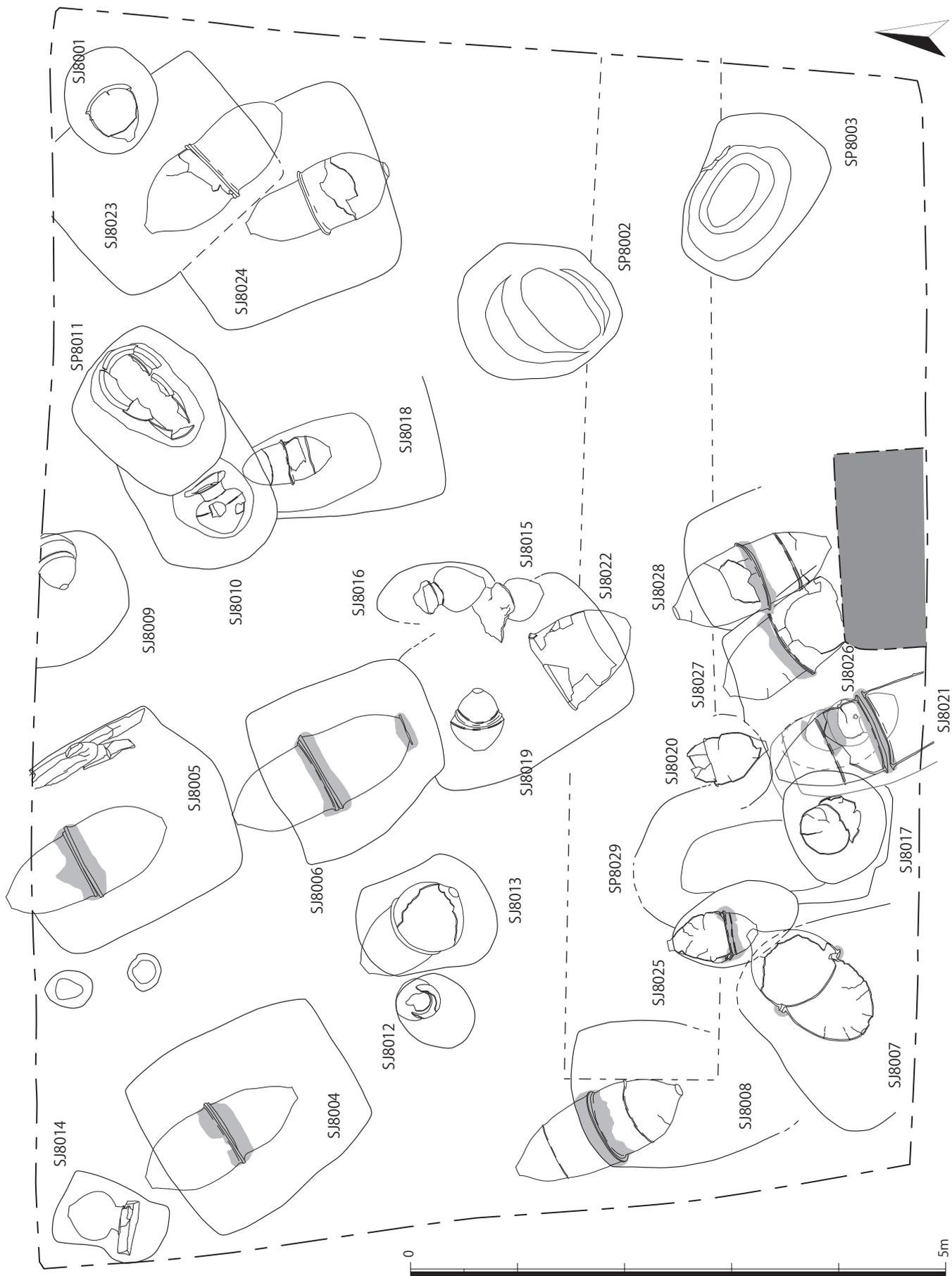


図3 村田三本松遺跡8区遺構配置図 (1/50)

第3章 調査の内容

I. 遺跡の概要

本調査対象地点は、村田三本松遺跡の中でも北西端にあたり、国道34号に北接する標高約18mの地点である。元は田として利用されていたが、昭和に入り約1mの盛土がなされ、現況となっている。遺構検出面において、複数基の小形棺が輪切りの状態であったことから、少なくとも1mほどの削平がすでに行われていたことが推測できる。

当該地の北と東は大型店舗と隣接しており、平成23年に実施した店舗建設に伴う確認調査において、駐車場の西側入口付近で甕棺墓を検出した。盛土によって遺構の保護を行ったため、本調査は実施していないが、今次調査で検出した甕棺墓地の一部と推測され、墓地の広がりを知る手掛かりの一つである。

本遺跡では、昭和56年の1次調査から7次の調査を行っている。8次となる今次調査は、東西約11.5m、南北約8mの調査区を設定して実施した。その結果、弥生時代前期末～中期前半の甕棺墓25基、土壙墓4基を検出し、当該期の墓地遺跡であることが明らかになった。

II. 調査の内容

墓地の状況

本墓域の特徴として、甕棺墓のほとんどが、おおよそ北西-南東を主軸として埋置されていることが挙げられる。特に、調査区の西側で検出したSJ8005・SJ8006・SJ8022・SJ8028・SJ8004・SJ8008・SJ8021の7基の甕棺墓は、南から約30度東に振った埋置または北から約30度西に振った埋置であり、整然と列状をなしているようにも見える。ただ、SJ8005・SJ8006・SJ8022・SJ8028は一定間隔で列状に埋置されているのに対し、SJ8004・SJ8008・SJ8021の間隔は一定ではなく、他の甕棺墓と同様に墓域の規制によってほぼ同じ角度での埋置が行われたのかもしれない。

大形棺と小形棺の構成をみると、大形棺は12基、小形棺13基、うち完形の壺を使用して石蓋をしたものが4基、頸部から打ち欠いた壺をあわせたものが5基であった。(表1)。壺の蓋の石材は、SJ8014は花崗岩、SJ8010、SJ8015、SJ8016は緑色片岩である。緑色片岩は、すぐ北東の朝日山で多く採集されることから地元では「朝日山の石」と呼称され、この石が多用されていることはこの地域の特徴といえる。

次に、特徴的な墓地について個別に記す。

SJ8005では、一次墓壙の東壁に立てられた3枚の緑色片岩の板石を確認した(図4)。この甕棺墓は、調査区境で検出され、一次墓壙の一部及び二次墓壙は調査区外となる。板石が調査区外の部分にも設置されているかどうかを試掘棒で確認したところ、調査区外には確認できなかった。この板石の上面には石を固定するように粘土が貼られていた。東隣のSJ8009との間には一定の間隔があり、本甕棺墓との重複関係にある遺構は検出できず、この板石の機能については不明である。また、この甕棺墓では、棺内から銅矛の切先を確認した。これについては後述する。

SJ8006では、上甕の底が打ち欠かれ板石と粘土によって塞がれた状態を検出した(図4)。遺構検出では、J8022→SJ8006の重複関係として検出したが、SJ8022の掘下げ中にSJ8019を検出したことから、SJ8019をSJ8006に重複して埋納したところSJ8006の甕棺の一部を破壊したため、板石で塞いだ可能性も考えられる。

SJ8024では、二次墓壙の奥に花崗岩を確認した(図7)。調査も終盤にかかり、時間的制約もあったた

め石材の残り半分については図化を断念した。遺構検出面では本墓地とこれに重複する SJ8023 の一次墓壇のほかは検出できなかったため、本甕棺墓に関係するものではないと考える。

SP8011 は、SJ8010 を切って造営された 2 段掘りの土壇墓で、2 次墓壇の壁面には大形甕の破片 7 枚が立てられていた (図 8)。甕棺片は、口縁部と胴部上半の一部が使用され全体の約 3 分の 1 であった。

出土遺物

甕棺は、大形・小形の甕、鉢、壺を合わせ 45 個体が出土した。器高 70cm 以上の大形甕は 23 個体、大形甕に伴う鉢は 1 個体、器高 70cm 未満の小形甕は 6 個体、壺は 11 個体、小形甕または壺に伴う鉢は 4 個体である。大形甕について、口縁部や胴部上半の形状、口縁端部の刻み目の有無、沈線の有無などに着目すると、金海式 (橋口編年 K I c 式: SJ8004 上甕・同下甕・SJ8005 上甕・同下甕・SJ8006 上甕・同下甕・SJ8013 下甕・SJ8022・SJ8024 上甕・SJ8027 上甕・SP8011) 期、城の越式 (K II a 式: SJ8007 上甕・同下甕・SJ8008 上甕・同下甕・SJ8023 上甕・同下甕・SJ8024 下甕・SJ8027 下甕・SJ8028 上甕・同下甕) 期、汲田式古段階 (K II b 式: SJ8021 上甕・同下甕) に分類できた。このことから、当該墓地は弥生時代前期末～中期前半の所産であるといえる (表 1)。

土器への黒塗りについてみると、45 個体の甕棺のうち 27 個体で観察できた。甕棺の黒塗りについては、数多くの遺跡で報告例があり、よく知られている。今次調査の甕棺にみられる黒塗りは、大形甕だけではなく小形甕や上甕に用いられている鉢や壺にも施されており、サイズや器種に関わらず黒塗りを施していることがわかる。黒塗りの部位を見ると、胴部の外面に施す例が最も多く、内外面ともに施す例は少ない。棺体に黒塗りを施すことも本遺跡の特徴としてとらえることができる。

SJ8005 出土の銅矛切先は、棺内埋土の除去作業中に埋土とともに取り上げたため、正確な出土位置を特定することはできないが、上甕と下甕の接合部付近の底面に近い所にあったようである。ほぼ水平に埋置された甕棺の接合部付近での出土により、被葬者の腰付近に刺さっていたものとみられる。本市での青銅器切先の出土は 6 例目であり、銅矛に限れば安永田遺跡 7 区、柚比本村遺跡 4 区、儀徳遺跡 3 区の出土例に続き 4 例目となる。

まとめ

今次調査区は、弥生時代前期末～中期前半の甕棺墓を中心とした墓地であることが明らかとなった。甕棺墓の分布状況から墓域は調査区の南北および東側へ広がる可能性が考えられる。本遺跡で同時期の墓地跡として、本調査区から南東約 600 m に所在する 1 次調査区がある。1 区では縄文時代晩期の甕棺墓 7 基と弥生時代前期後半～中期後半の甕棺墓 24 基による墓地跡を確認している。この墓域に対応する集落がどこに所在したかは明らかではないが、本遺跡の中において同時期に少なくとも 2 つのグループが朝日山南麓の低位段丘で生活を営んでいたことがわかる。

なお、当該調査では確認調査において甕棺墓 4 基を確認し、10 基程度の甕棺墓を見込み調査期間を 1 カ月と設定したが、表土を剥ぎ調査を進めると想定以上の甕棺墓が埋蔵されていることが判明した。そこで、住宅建設に伴う杭の埋設によって影響が及ぶ範囲で調査を進めた。したがって、当該地には甕棺墓が包蔵されており、当該地において土地の改変を伴う開発を行う場合には、追加の発掘調査が必要であることを記しておく。

参考文献

鳥栖市教育委員会 1983 『村田三本松遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第 17 集

鳥栖市教育委員会 2008 『村田三本松遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第 80 集

鳥栖市教育委員会 2008 『鳥栖市文化財年報 1998・1999・2000・2001 年度版』

鳥栖市教育委員会 2010 『鳥栖市文化財年報 1994・1995・1996・1997 年度版』

橋口達也 1979 「甕棺の編年的研究」福岡県教育委員会『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXX I 中巻

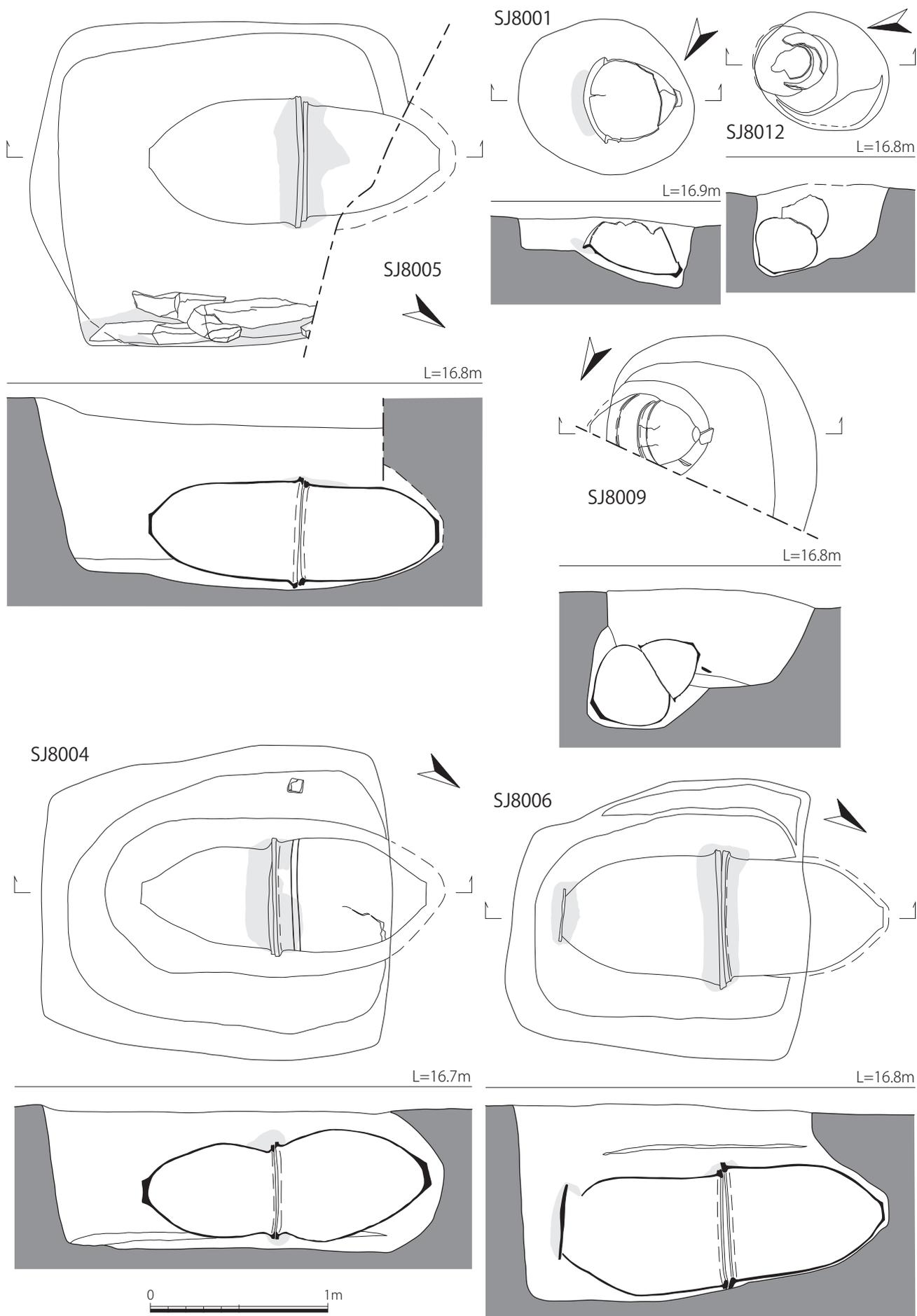


图4 SJ8001 · SJ8004 · SJ8005 · SJ8006 · SJ8009 · SJ8012 (1/30)

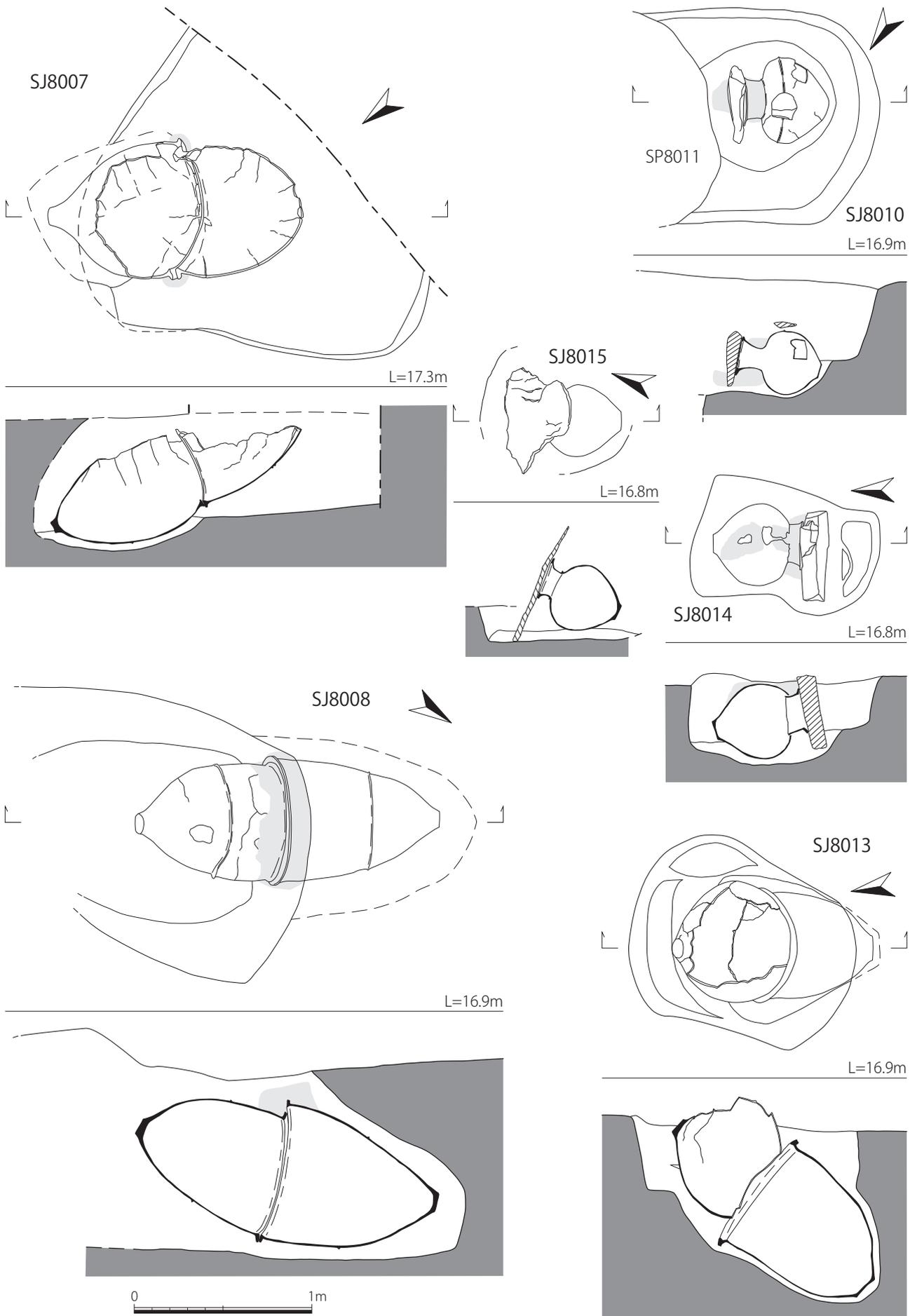


图 5 SJ8007 · SJ8008 · SJ8010 · SJ8013 · SJ8014 · SJ8015 (1/30)

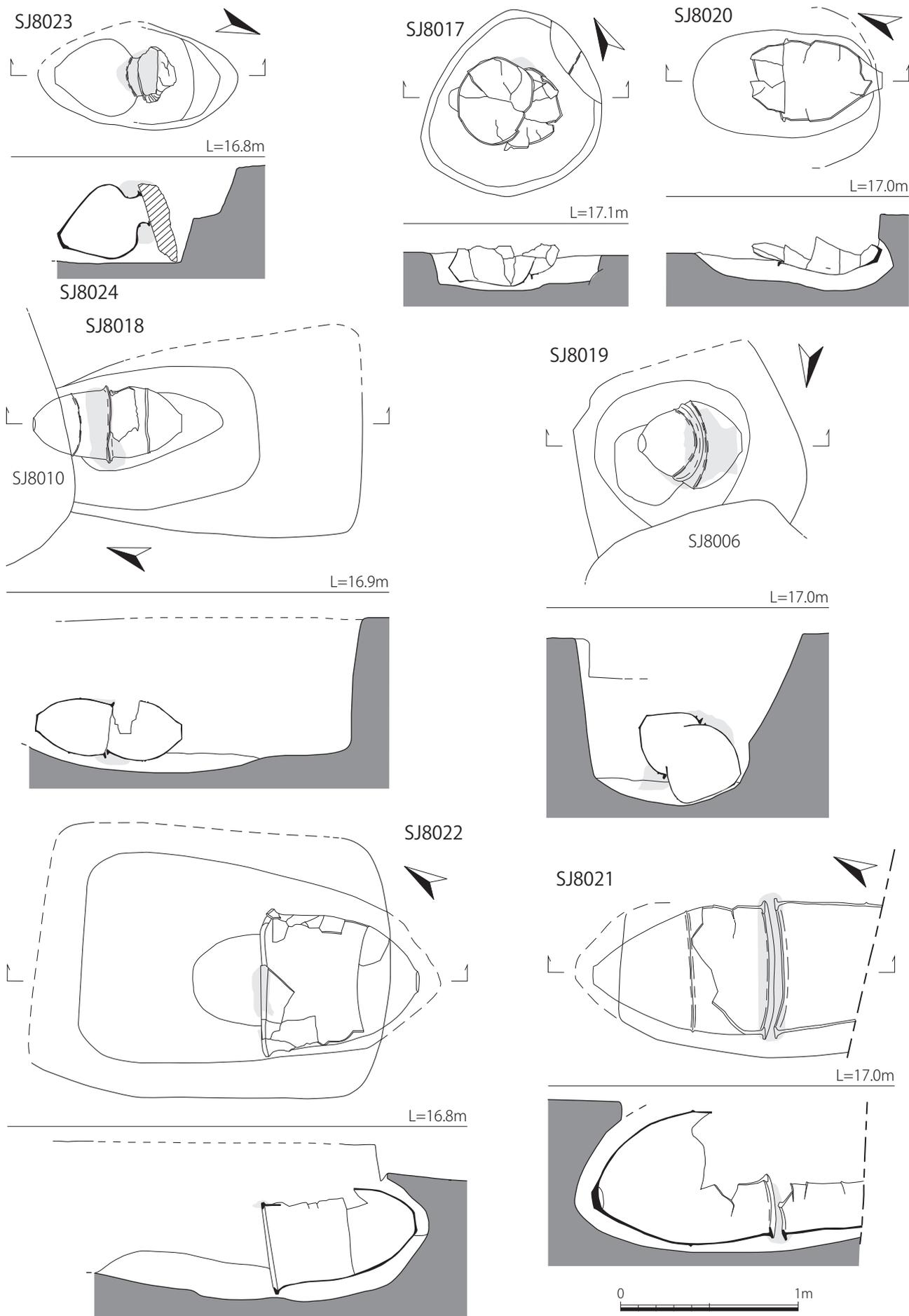
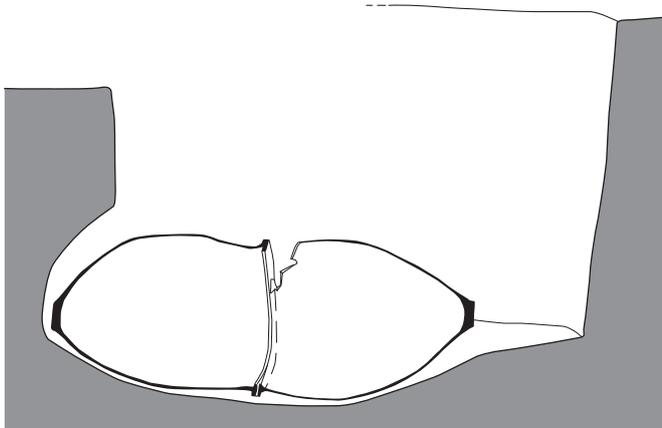
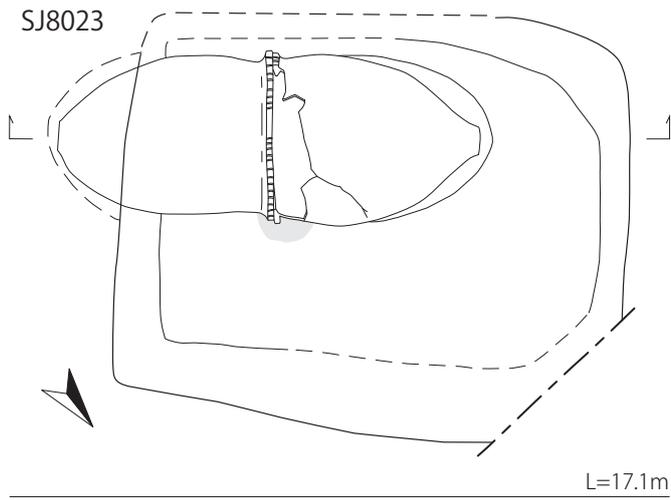
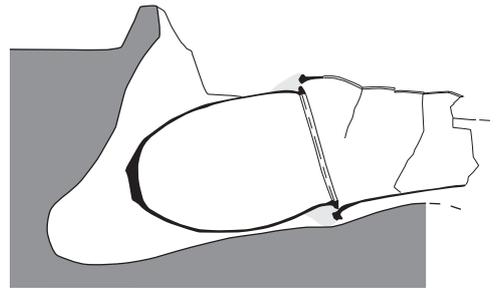
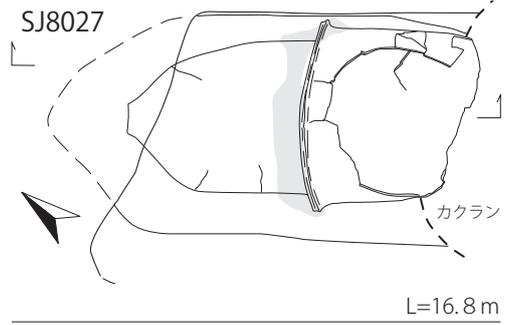
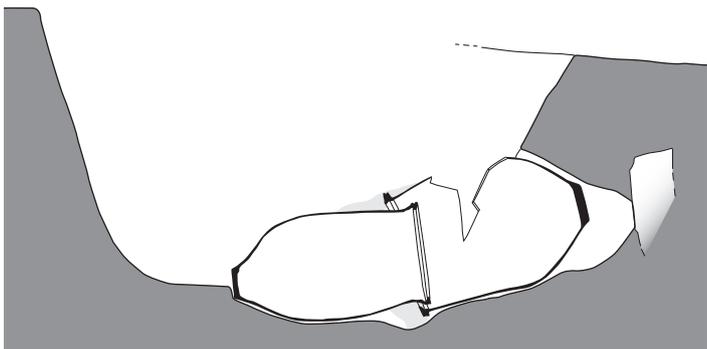
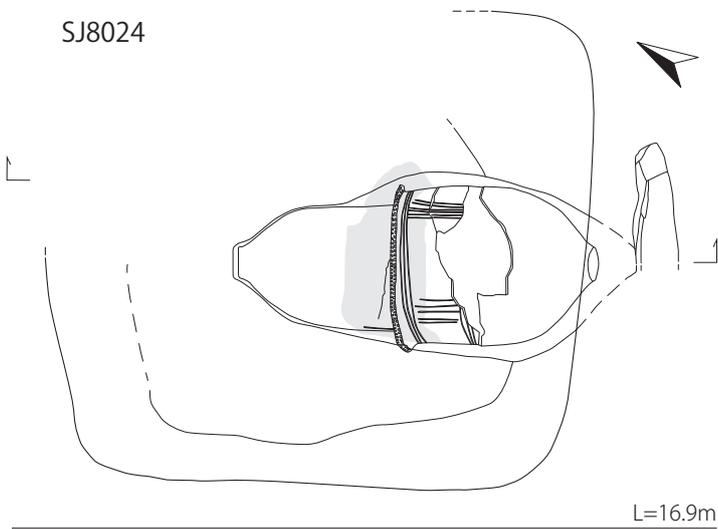


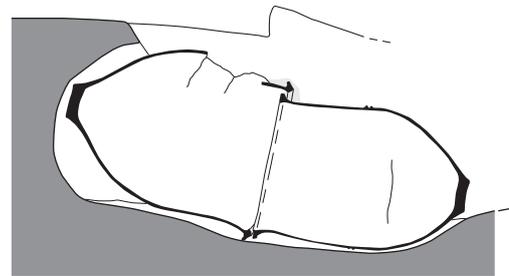
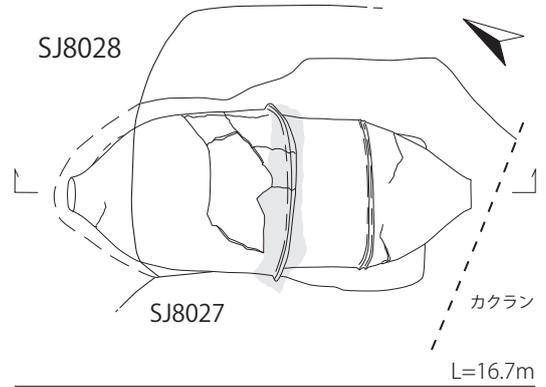
图6 SJ8016 · SJ8017 · SJ8018 · SJ8019 · SJ8020 · SJ8021 · SJ8022 (1/30)



SJ8024



SJ8028



SJ8025

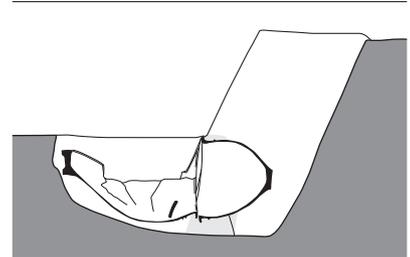
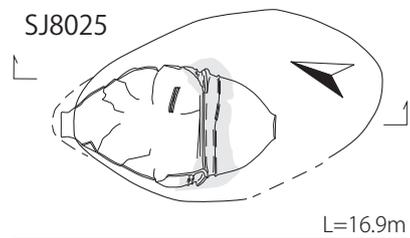


図7 SJ8023・SJ8024・SJ8025・SJ8027・SJ8028 (1/30)

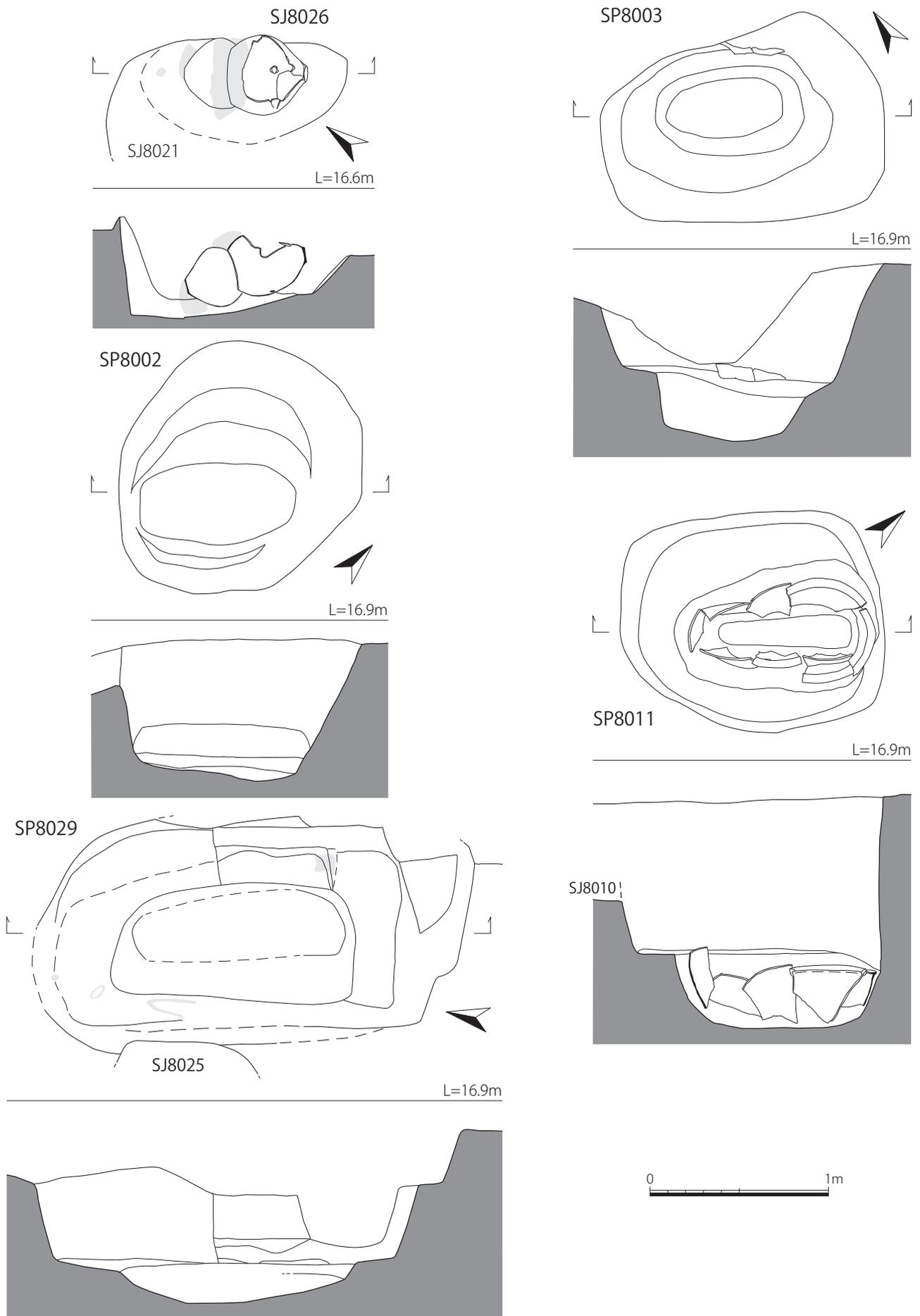


图 8 SJ8026 · SP8002 · SP8003 · SP8011 · SP8029 (1/30)

表1 村田三本松遺跡8区遺構一覧 甕棺墓

遺構番号	挿図番号	甕棺形式			棺の埋置		一次墓墳				二次墓墳		新旧関係		出土遺物	時期	備考	
		構造	上甕	下甕	主軸方位	角度	平面	長軸	短軸	深さ	長軸	深さ	旧	新				
SJ8001	図4	-	-	甕	完	甕	N 59° E	39°	円	0.99	0.88	0.15	0.65	0.21	-	-	中期前半	-
SJ8004	図4	接口	甕	完	甕	完	S 34 E	-3	偶丸方	1.98	1.78	0.80	1.92	0.04	-	-	前期末	-
SJ8005	図4	接口	甕	完	甕	完	S 33 E	2	偶丸方	2.12	1.83	0.98	0.18	-	-	-	前期末	一次墓墳東壁に緑色片岩あり
SJ8006	図4	接口	甕	完	甕	完	S 33 E	-3	偶丸方	1.69	1.54	1.11	0.44	-	SJ8019 SJ8022	-	前期末	上甕底部の破損を緑色片岩で補う
SJ8007	図5	接口	甕	完	甕	完	S 38 W	25	偶丸方	1.97+	1.71	0.53	0.25	0.19	SJ8008 SJ8025	-	中期初頭	-
SJ8008	図5	接口	甕	完	甕	完	S 33 E	13	偶丸長方?	1.07+	1.49	1.12	0.87	-	SJ8007	-	中期初頭	-
SJ8009	図4	接口	鉢	完	壺	欠	S 61 W	33	偶丸長方	1.16	0.90	0.56	0.57	-	-	-	中期初頭	-
SJ8010	図5	単	石	-	壺	完	N 56 E	10	楕円?	0.97	1.21	0.44	0.72	0.22	SP8011	-	前期末	-
SJ8012	図4	接口	壺	欠	壺	欠	S 10 W	60	楕円	0.74	0.66	0.39	0.43	0.11	-	-	中期初頭	-
SJ8013	図5	接口	鉢	欠	甕	完	N 10 E	39	偶丸長方	1.28	1.09	0.43	1.16	0.65	-	-	前期末	-
SJ8014	図5	単	石	-	壺	完	S 1 W	13	不整	1.07	0.66	0.50	-	-	-	-	中期初頭	-
SJ8015	図5	単	石	-	壺	完	N 18 W	22	-	0.83	-	0.20	-	-	SJ8022 SJ8016	-	中期初頭	墓墳不明確
SJ8016	図6	単	石	-	壺	完	N 20 W	19	-	0.25+	0.61	0.28	0.87	0.25	SJ8015	-	中期初頭	墓墳不明確
SJ8017	図6	接口	鉢	完	壺	欠	S 63 E	32	円	0.96	1.04	0.20	-	-	SP8029 SJ8021	-	中期初頭	-
SJ8018	図6	接口	甕	完	甕	完	S 17 E	-4	偶丸長方?	1.88+	1.03	0.87	-	-	SJ8010 SP8011	-	中期前半	墓墳不明確
SJ8019	図6	覆口	鉢	完	壺	欠	N 85 E	34	-	1.27	0.93	0.95	-	-	SJ8022 SJ8006	-	前期末?	墓墳不明確
SJ8020	図6	呑口	甕	完	甕	完	N 21 W	19	-	1.05	0.90	0.43	-	-	SP8029 SJ8026 SJ8027	-	前期末	墓墳不明確
SJ8021	図6	接口	甕	完	甕	完	S 30 E	14	長方	1.39	0.97+	0.87	0.25+	-	SJ8017 SJ8026	-	中期前半	-
SJ8022	図6	単	木?	-	甕	完	N 32 W	-7	偶丸方	2.00	1.52	0.90	0.23	-	SJ8019 SJ8015	-	前期末	-
SJ8023	図7	接口	甕	完	甕	完	N 52 W	0	偶丸方	1.98	1.69	1.26	1.75	0.22	SJ8024 SJ8001	-	中期初頭	-

遺構番号	挿図番号			甕棺形式		棺の埋置		一次墓墳				二次墓墳		新旧関係		時期	出土遺物	備考	
	構造	上甕	下甕	主軸方位	角度	平面	長軸	短軸	長さ	深さ	長軸	短軸	長さ	深さ	旧				新
SJ8024	図7	完	完	N 30 W	-12	隅丸方	2.12	1.88	1.24	0.45	-	-	-	-	-	SJ8023	-	中期初頭	-
SJ8025	図7	完	鉢	S 19 E	-3	楕円	1.16	0.73	0.78	-	-	-	-	-	SJ8007 SP8029	-	中期初頭	切り合いにより 墓壇不明確	
SJ8026	図8	欠	壺	S 38 E	13	楕円?	1.15	0.60	0.56	-	-	-	-	SJ8027	SJ8021 SJ8020	-	中期初頭	墓壇不明確	
SJ8027	図7	完	甕	S 39 E	15	長方?	1.25+	0.90	0.90	0.38	0.12	-	-	SJ8028	SJ8020 SJ8021 SJ8026	-	中期初頭	墓壇不明確	
SJ8028	図7	完	甕	S 32 E	-11	隅丸長方	1.35	1.28	0.90	0.30	-	-	-	-	SJ8027	-	中期初頭	墓壇不明確	

表2 村田三本松遺跡8区遺構一覧 土壇墓

遺構番号	挿図番号	主軸方位	一次墓墳			二次墓墳			新旧関係			時期	備考	
			平面形	長軸	短軸	深さ	平面形	長軸	短軸	長さ	深さ			旧
SP8002	図8	N 48 E	円	1.37	1.42	0.78	楕円	-	-	-	-	-	-	-
SP8003	図8	S 54 E	隅丸長方	1.60	1.05	0.62	隅丸長方	0.84	0.50	0.39	-	-	-	-
SP8011	図8	N 41 E	隅丸長方	1.47	1.24	0.90	隅丸長方	1.15	0.68	0.42	-	SJ8010	前期末	二次墓壇壁に甕棺破片を使用
SP8029	図8	S 33 E	隅丸長方?	2.40	1.28	0.80	隅丸長方	1.32	0.66	0.18	-	SJ8021 SJ8025	前期末	-

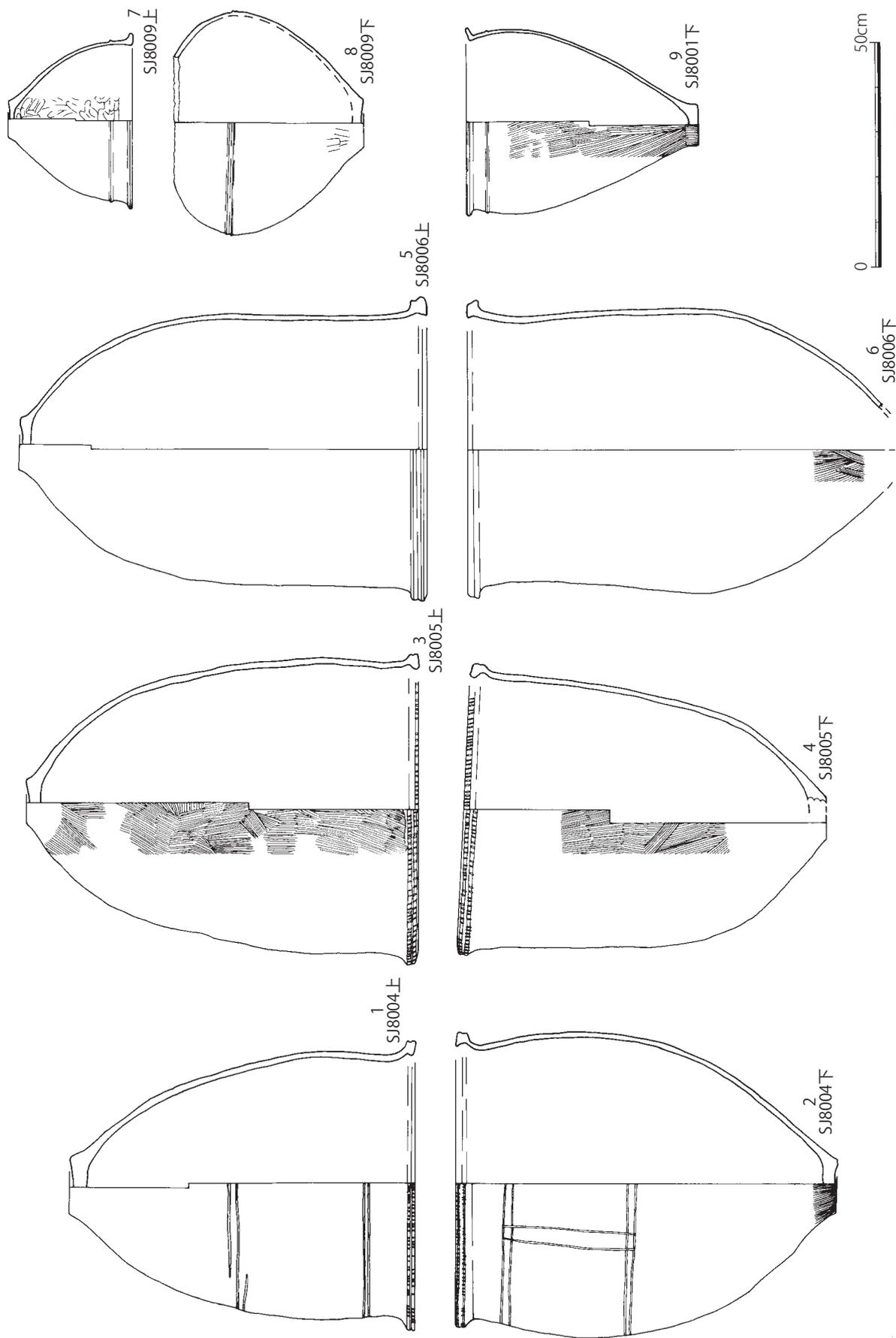


图9 SJ8001 · SJ8004 · SJ8005 · SJ8006 · SJ8009 甕棺 (1/12)

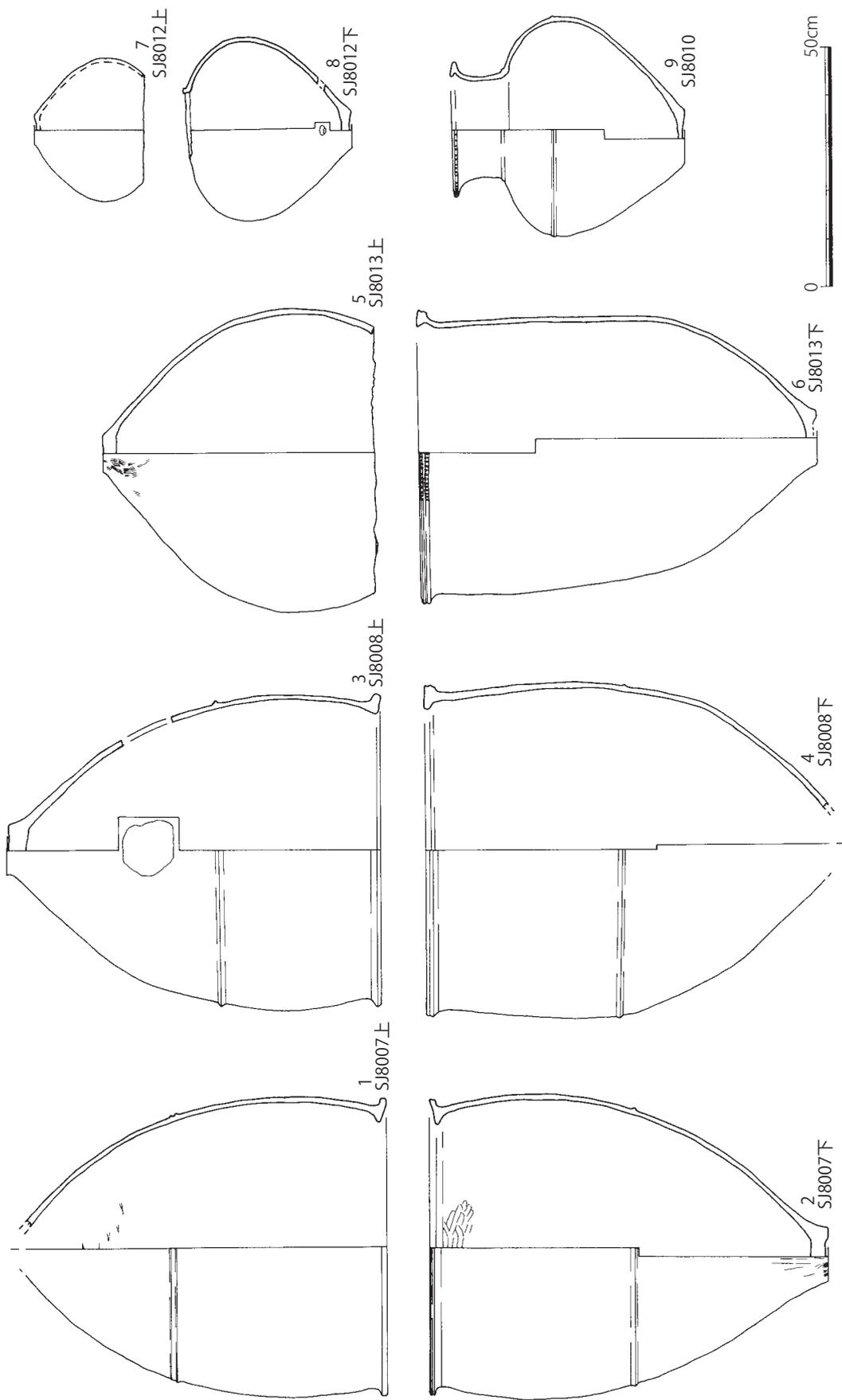


图 10 SJ8007 · SJ8008 · SJ8010 · SJ8012 · SJ8013 甕棺 (1/12)

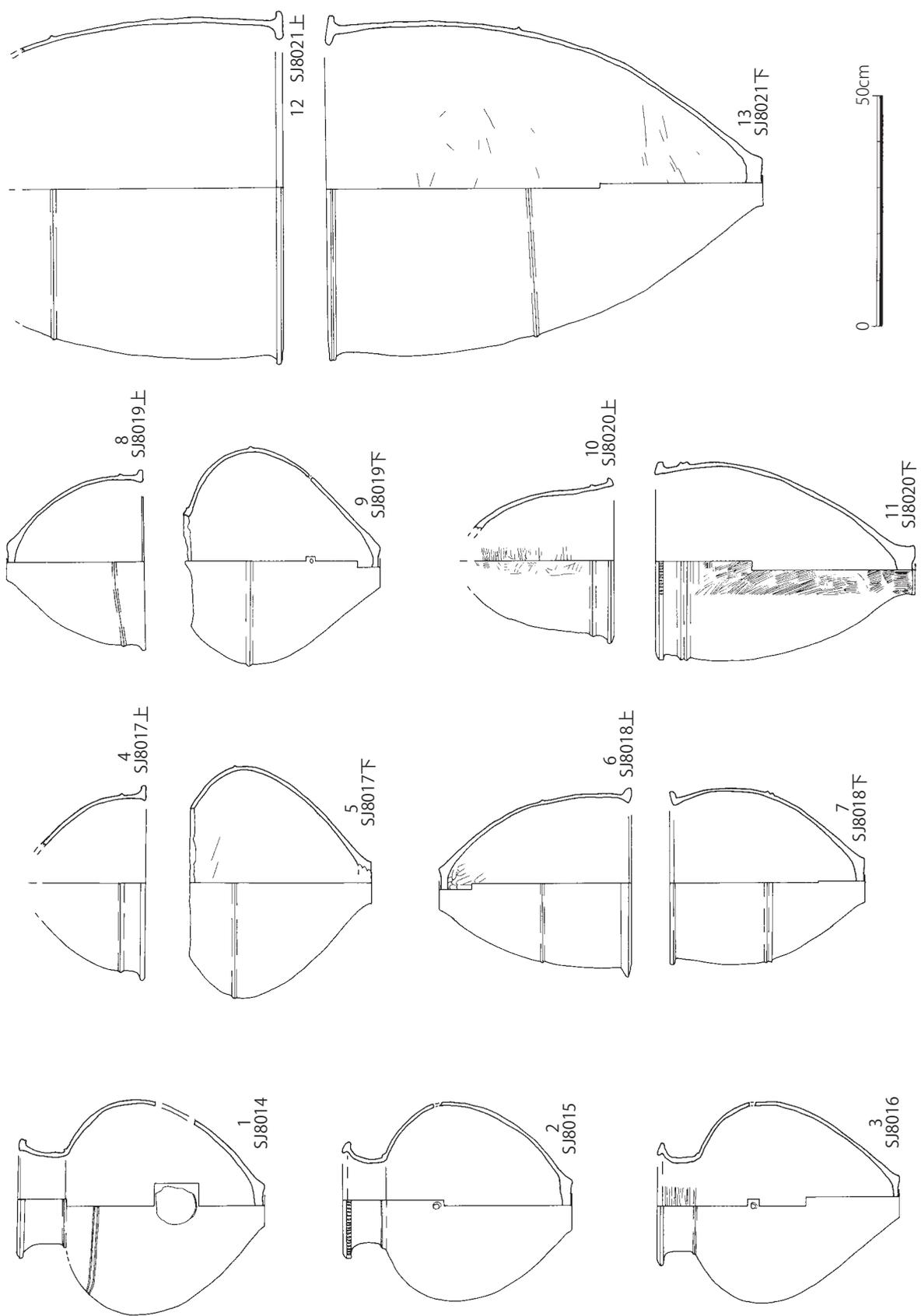


图 11 SJ8014 · SJ8015 · SJ8016 · SJ8017 · SJ8018 · SJ8019 · SJ8020 · SJ8021 甕棺 (1/12)

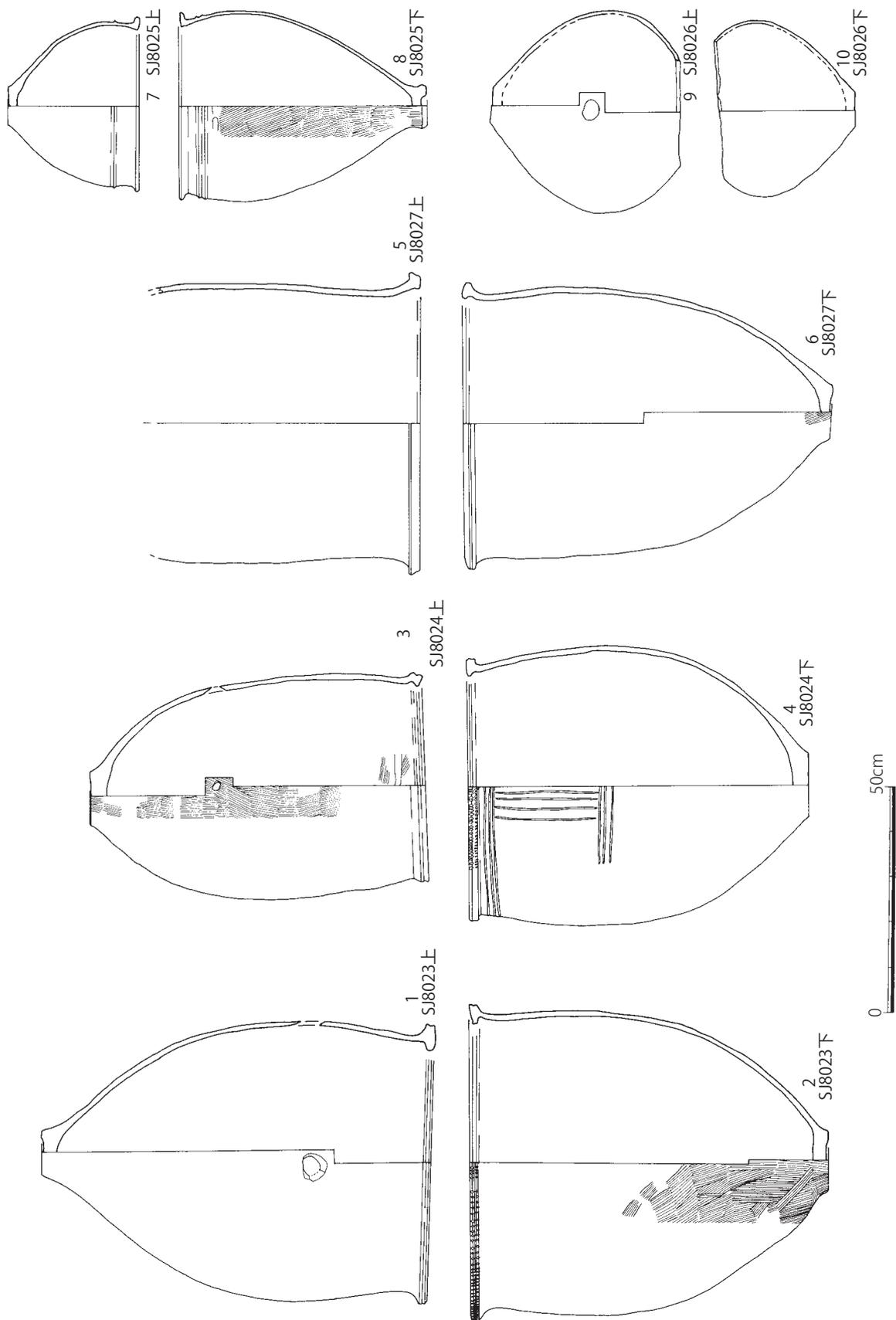


图 12 SJ8023 · SJ8024 · SJ8025 · SJ8026 · SJ8027 甕棺 (1/12)

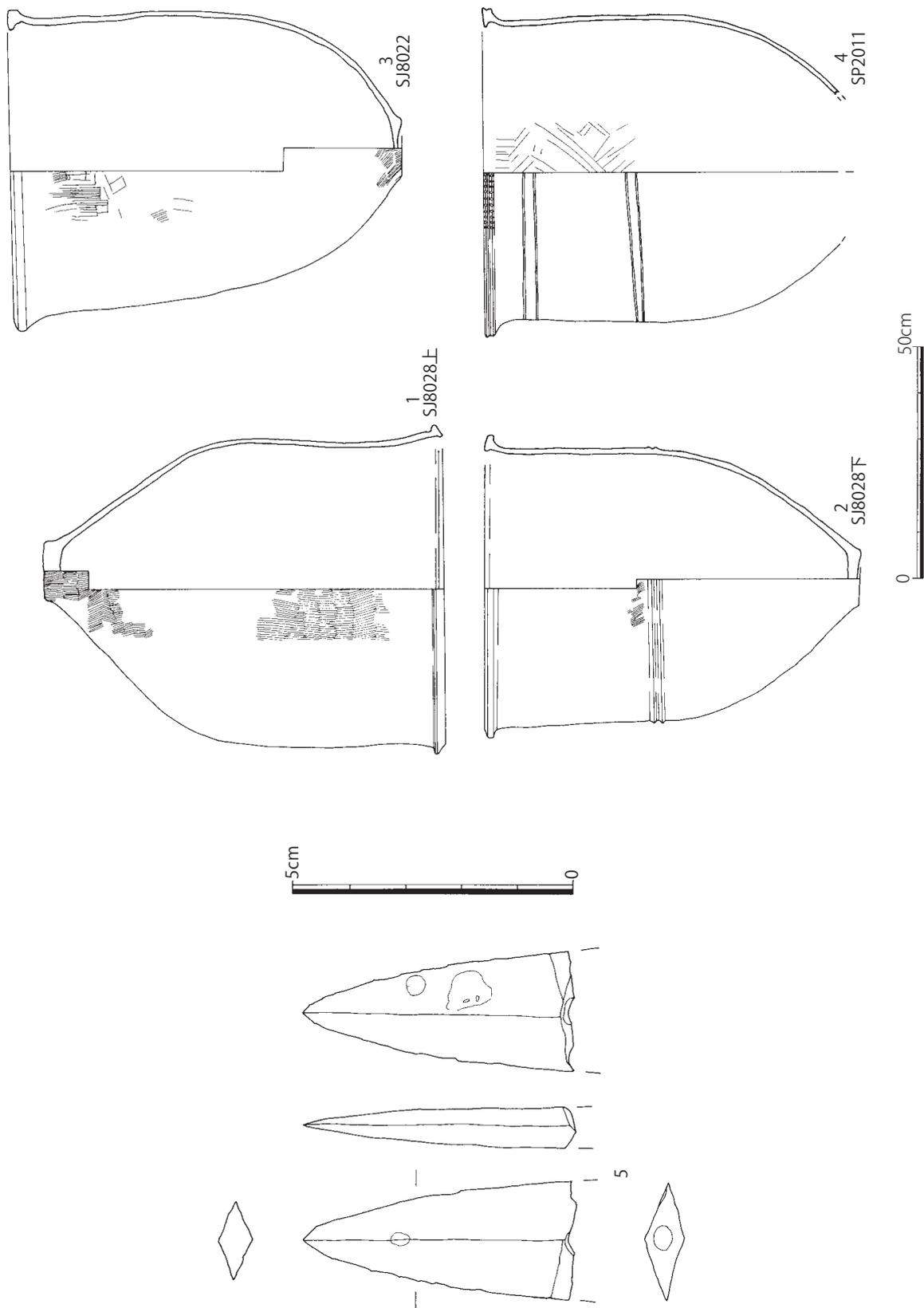


图 13 SJ8022 · SJ8028 甕棺、SP8011 出土遺物 (1/12)、SJ8005 出土遺物 (1/1)

表3 村田三本松遺跡8区 出土遺物(甕棺)

番号 挿図	遺物	出土位置	位置	種別	器種	寸法			特記事項	色調		備考	登録番号
						口縁径	器高	底部径		外面	内面		
図9	9	SJ8001	下	弥生土器	甕	(42.0)	51.0	9.0	外面黒塗り	にぶい橙・黒	にぶい橙・黄橙	—	160302
図9	1	SJ8004	上	弥生土器	甕	(64.6)	74.8	12.7	外面胴下半黒塗り 沈線：口縁下、胴部とも、口縁から底部方向にらせん状に入る	明褐・橙	橙	—	160303
図9	2	SJ8004	下	弥生土器	甕	65.8	83.4	11.9	外面黒塗り 沈線：口縁下は右方向へらせん状に入り、胴部は左方向へ2条	にぶい黄橙	橙	—	160333
図9	3	SJ8005	上	弥生土器	甕	69.3	84.8	10.0	—	黒褐・にぶい黄橙	褐灰・にぶい黄橙	—	160334
図9	4	SJ8005	下	弥生土器	甕	65.0	80.6	(9.1)	—	にぶい橙・褐灰	にぶい黄橙・灰黄褐	—	160335
図9	5	SJ8006	上	弥生土器	甕	68.0	88.2	11.6	外面黒塗り	浅黄橙	黄橙・にぶい黄褐	—	160336
図9	6	SJ8006	下	弥生土器	甕	66.4	<91.4>	—	口縁上面と内面胴部上半に黒塗り	にぶい黄橙	黄褐	外面黒塗り?	160337
図10	1	SJ8007	上	弥生土器	甕	(62.0)	<73.5>	—	外面口縁部下黒塗り	にぶい黄橙	にぶい橙	—	160304
図10	2	SJ8007	下	弥生土器	甕	(62.0)	81.8	11.0	—	橙・にぶい橙	にぶい橙	外面黒塗り?	160305
図10	3	SJ8008	上	弥生土器	甕	65.6	76.3	10.4	外面黒塗り	橙	にぶい橙	—	160306
図10	4	SJ8008	下	弥生土器	甕	69.2	<83.0>	—	内面胴部上半～外面黒塗り	にぶい黄橙	橙	—	160338
図9	7	SJ8009	上	弥生土器	鉢	38.9	27.3	8.2	内面口縁部黒塗り	明黄褐	浅黄・明赤褐(口縁部)・にぶい黄橙	—	160313
図9	8	SJ8009	下	弥生土器	壺	—	<41.0>	10.6	外面黒塗り	橙	にぶい黄褐	—	160309
図10	9	SJ8010	—	弥生土器	壺	28.0	48.2	11.0	—	橙	灰褐・黒褐	—	160301
図10	7	SJ8012	上	弥生土器	壺	—	<22.2>	6.0	外面胴部黒塗り	にぶい黄橙	にぶい黄橙	—	160310
図10	8	SJ8012	下	弥生土器	壺	—	<34.6>	7.8	—	にぶい黄橙・橙	にぶい黄橙	—	160311
図10	5	SJ8013	上	弥生土器	鉢	—	<55.5>	8.0	—	明黄褐	黄褐	—	160314
図10	6	SJ8013	下	弥生土器	甕	61.4	81.8	11.8	内面と外面胴部下半黒塗り	にぶい黄橙	にぶい黄橙	—	160316
図11	1	SJ8014	—	弥生土器	壺	25.6	52.6	9.0	内面と外面胴部下半黒塗り	黄橙・黒褐	灰褐	—	160317
図11	2	SJ8015	—	弥生土器	壺	25.0	49.3	10.4	—	橙・赤褐	橙・灰褐	—	160318

番号 挿図	出土位置	位置	種別	器種	寸法			特記事項	色調		備考	登録番号
					口縁径	器高	底部径		外面	内面		
図11 3	SJ8016	—	弥生土器	壺	26.4	52.0	9.0	外面黒塗り	黒褐・灰褐	—	160322	
図11 4	SJ8017	上	弥生土器	鉢	(42.0)	<21.4>	—	—	にぶい黄橙	—	160307	
図11 5	SJ8017	下	弥生土器	壺	—	<39.0>	(8.8)	外面黒塗り	褐灰・明赤褐	—	160308	
図11 6	SJ8018	上	弥生土器	甕	41.0	41.2	8.8	口縁部上面と外面胴部黒塗り	口縁部橙・にぶい橙、 突帯から底部暗褐・ 黒	明黄褐、底部黒	—	160319
図11 7	SJ8018	下	弥生土器	甕	37.5	41.9	9.6	口縁部上面と内面黒塗り	にぶい黄橙	にぶい黄橙、底部黒	—	160320
図11 8	SJ8019	上	弥生土器	鉢	39.2	28.8	7.6	外面黒塗り	橙	にぶい黄橙・黒褐	—	160329
図11 9	SJ8019	下	弥生土器	壺	—	<42.5>	8.6	内面と外面上半黒塗り	浅黄橙・にぶい橙	黄灰・黒褐	—	160321
図11 10	SJ8020	上	弥生土器	甕	(35.6)	<30.2>	—	—	にぶい黄橙	明黄褐	—	160324
図11 11	SJ8020	下	弥生土器	甕	(42.8)	55.9	10.4	—	明黄褐	にぶい橙	—	160323
図11 12	SJ8021	上	弥生土器	甕	(76.0)	<54.9>	—	—	橙・にぶい橙	橙	—	160325
図11 13	SJ8021	下	弥生土器	甕	74.5	94.0	10.4	—	橙	橙	—	160326
図13 3	SJ8022	単	弥生土器	甕	69.4	82.5	12.0	—	にぶい橙	黄橙	—	160327
図12 1	SJ8023	上	弥生土器	甕	62.2	85.7	9.8	外面胴部黒塗り	にぶい橙・橙	にぶい橙	—	160339
図12 2	SJ8023	下	弥生土器	甕	70.0	78.7	13.3	口縁部上端と外面黒塗り	にぶい黄橙	にぶい黄橙	—	160340
図12 3	SJ8024	上	弥生土器	甕	46.0	73.5	11.8	外面黒塗り	にぶい黄橙・にぶい 赤褐	にぶい黄橙	—	160341
図12 4	SJ8024	下	弥生土器	甕	58.5	74.7	14.0	沈線：口縁下右方向にらせん状、 胴部左方向にらせん状に入る、縦 は4か所に4～6本	橙・淡赤橙	橙	—	160342
図12 7	SJ8025	上	弥生土器	鉢	38.6	28.8	8.4	口縁部上面と内面黒塗り	橙・にぶい橙	にぶい橙	—	160315
図12 8	SJ8025	下	弥生土器	甕	41.7	53.6	8.8	外面胴下半黒塗り	橙・褐	にぶい橙	—	160328
図12 9	SJ8026	上	弥生土器	壺	—	41.5	7.4	外面黒塗り	明黄褐	橙	—	160330
図12 10	SJ8026	下	弥生土器	壺	—	<30.8>	7.6	—	にぶい黄橙	灰黄褐・底部黒	—	160312
図12 5	SJ8027	上	弥生土器	甕	(67.0)	<57.2>	—	—	にぶい橙	にぶい黄褐	—	160331

挿図	番号	出土位置	位置	種別	器種	寸法			特記事項	色調		備考	登録番号
						口縁径	器高	底部径		外面	内面		
図12	6	SJ8027	下	弥生土器	甕	63.8	81.0	12.2	口縁上面～内面黒塗り	にぶい黄橙・にぶい黄褐	にぶい黄橙・にぶい黄褐	—	160343
図13	1	SJ8028	上	弥生土器	甕	71.2	<84.0>	12.8	—	にぶい橙・浅黄橙	にぶい橙・浅黄橙	—	160344
図13	2	SJ8028	下	弥生土器	甕	65.3	79.6	12.0	内外面黒塗り	明黄褐・黒褐	にぶい黄橙・黄褐	—	160345
図13	4	SP8011	—	弥生土器	甕	<71.0>	<75.6>	—	—	橙	橙	外面黒塗り?	160332

表4 村田三本松遺跡8区 出土遺物（青銅器）

挿図	番号	出土位置	種別	器種	寸法			備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ		
図13	5	SJ8005	青銅器	銅矛	<4.9>	2.2	0.7	切先	170001



1. 8区全景 (西から)

写真図版 2



1. 8区全景 (西から)



2. 8区全景 (東から)



1. SJ8001 (南から)



2. SJ8004 (西から)



3. SJ8005 (東から)



4. SJ8006 (東から)



5. SJ8007 (北西から)



6. SJ8008 (南西から)



7. SJ8009 (南から)



8. SJ8010 (南西から)

写真図版 4



1. SJ8010(右)、SP8011(左) (北から)



2. SJ8012 (西から)



3. SJ8013 (南西から)



4. SJ8014 (東から)



5. SJ8015 (東から)



6. SJ8016 (南から)



7. SJ8017(南西から)



8. SJ8018 (西から)



1. SJ8019 (北から)



2. SJ8020 (北から)



3. SJ8021 (東から)



4. SJ8022 (東から)



5. SJ8025 (西から)



6. SJ8026 (西から)



7. (左から) SJ8026、SJ8027、SJ8028 (南から)



8. SP8002 (北から)

写真図版6



1. SP8003 (南から)



2. SP8029 (東から)



3. SJ8001 下甕



4. SJ8004 上甕



5. SJ8004 下甕



6. SJ8005 上甕



7. SJ8005 下甕



8. SJ8006 上甕



1. SJ8006 下甕



2. SJ8007 上甕



3. SJ8007 下甕



4. SJ8008 上甕



5. SJ8008 下甕



6. SJ8009 上甕



7. SJ8009 下甕



8. SJ8010



9. SJ8012 上甕



写真图版 8



1. SJ8012 下甕



2. SJ8013 上甕



3. SJ8013 下甕



4. SJ8014



5. SJ8015



6. SJ8016



7. SJ8017 上甕



8. SJ8017 下甕



9. SJ8018 上甕



1. SJ8018 下甕



2. SJ8019 上甕



3. SJ8019 下甕



4. SJ8020 上甕



5. SJ8020 下甕



6. SJ8021 上甕



7. SJ8021 下甕



8. SJ8022



9. SJ8023 上甕



1. SJ8023 下甕



2. SJ8024 上甕



3. SJ8024 下甕



4. SJ8025 上甕



5. SJ8025 下甕



6. SJ8026 上甕



7. SJ8026 下甕



8. SJ8027 上甕



9. SJ8027 下甕



1. SJ8028 上甕



2. SJ8028 下甕



3. SP8011 出土遺物



4. SJ8005 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	むらたさんぼんまついせき							
書 名	村田三本松遺跡							
副 書 名	市内遺跡関係埋蔵文化財調査報告書2 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第92集							
編著者名	大庭 敏男							
発行機関	鳥栖市教育委員会							
所在地	〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地 Tel.0942-85-3695							
発行年月日	平成30(2018)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
むらたさんぼんまつ 村田三本松 いせき 遺跡8区	さがけんとしむらたまち 佐賀県鳥栖市村田町 あざごほんまつ 字五本松678-4	412031	067	33° 21′ 21″	130° 28′ 55″	20131120 ～ 20131222	91m ²	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
墳墓跡	弥生	甕棺墓		甕棺、銅矛切先		弥生時代の墓地		

鳥栖市文化財調査報告書第92集	
村田三本松遺跡	
—市内遺跡関係埋蔵文化財調査報告書2—	
平成30年3月31日 発行	
発行	鳥栖市教育委員会 佐賀県鳥栖市宿町1118番地
印刷	株式会社 クキナミ 佐賀県鳥栖市古賀町322番地